

＜学界消息＞

◇日本環境教育学会第14回大会記録

日時 2003年5月30日(金)～6月1日(日)

場所 愛知教育大学

エクスカージョン

「環境問題と環境教育の関わりを考える」

藤前干潟・長良川河口堰・木曽三川公園

シンポジウム

テーマ：「持続可能な未来に向けた環境教育－国連「持続可能な開発のための教育の10年」との関係において」

司会：芹沢俊介(愛知教育大学・大会実行委員長)

問題提起：鈴木善次(学会会長)「本シンポジウムの開催意義」

キーレポート：阿部治(立教大学)「『持続可能な開発のための教育の10年』について」

パネルディスカッション：「環境教育(EE)は『持続可能な開発のための教育(ESD)』とどう関係するのか」コーディネーター：樋口利彦(東京学芸大学)パネリスト：田中治彦(立教大学・開発教育協会代表)小澤紀美子(東京学芸大学)朝岡幸彦(東京農工大学・日本社会教育学会理事)阿部治

口頭発表

国際

タイの小学生に対する環境行動調査：石田博幸1
○神谷昭範2(1愛知教育大学、2愛知教育大学大学院)

途上国におけるNGO主体の環境教育センターの役割と可能性－インドネシア・PPLHの事例を通して－：○野村康1・阿部治2(1(財)地球環境戦略研究機関・2立教大学)

日韓学生による「問題解決型」交流の成果－環境学習を通しての共同創造－：○山本百合子・○谷沢枝里子・下羽友衛(東京国際大学)

シルクロードの自然と人に学ぶ：本庄真(奈良県香芝市真美ヶ丘東小学校)

アマゾン「餌」から見た環境教育－EDAMAZを中

心に－：生方秀紀(北海道教育大学釧路校)

ヨハネスブルグサミットの限界とNGOネットワークの可能性：上村雄彦(ネットワーク「地球村」)

モンゴルにおける酸性雨問題等に関する普及啓発活動事例：○河内綾子・山下研・佐藤二郎・岩田元一((財)日本環境衛生センター 酸性雨研究センター)

アメリカの内湾プログラムに見る「社会的学習」のしくみ－科学と参加が共に重視されるシステムの形成－：高山進(三重大学)

現代中国における環境政策の特徴：兪笋(東京農工大学大学院)

温暖化政策の研究～日本とイギリスを比較して～：天野雅夫(神戸商科大学)

大学における環境教育の制度化と拡大－マーチン・トロウの高等教育発展段階説の視点から－：内山弘美(東京大学先端科学技術研究センター)

水環境

水環境教育指導者のための本づくり－自分たちの環境基準をつくろう－：○小川かほる・石井誠治・内山弘美・内山真義・釜谷美則・城戸由能・小寺正明・庄司成敬・丹野忠弘・土永恒彌・原田泰・山田一裕(水環境教育研究委員会)

簡易UV計による河川水質モニタリングの提案：○加藤進1・高橋正昭2・下野昌幸3(1SIKK-International, 2三重県、3伸幸科学)

簡易水質分析を利用した多摩川の水環境評価事例：○石井誠治・南雲千寿奈((株)共立理化学研究所)

都市住民の水環境保全のためのガイドブックの作成と利用：原田泰(産業技術総合研究所)

公害

公害教育の誕生－西岡昭夫の場合：○安藤聡彦・曾貧(埼玉大学)

公害教育の役割と展望：関上哲・○西川未来子・桜井正喜(東京農工大学大学院)

市民になるための水俣病の学び方：○米光雅宣・新相真・下羽友衛(東京国際大学)

水俣病から何を学ぶか－若者の視点から－：浅野浅春(関西外国語大学)

総合学習

小学校における環境教育－社会科の調べ学習(5年)－：植田善太郎(大阪府泉大津市立上條小学校)

環境教育としての食文化教育－「小豆でっちを作ろう！」の実践を通して－：小坂靖尚(秋田県増田町立増田小学校)

未来志向型 ワークショップ導入による総合学習－未来の伊豆沼・内沼を題材にした玉沢小学校5年生の試み－：○佐藤慎也1・成瀬啓2・佐藤茂行1(1東北文化学園大学、2築館町立玉沢小学校)

自然エネルギーを調べよう：牧宏(名古屋市立庄内小学校)

季節のプログラムと子供達の変化：猪俣寛(河川環境楽園自然発見館NPO生態教育センター)

土教材を使った学習：山根一晃(鎌倉女子大学短期大学部)

DNAのリレーと共感の連鎖－アンネのバラ30周年の地域と学校での取り組み－：○小澤山佳1・槻新太郎1・浅野浩一1・金井創1・西城戸司2(1明治学院大学、2埼玉大学)

環境問題を総合学習で扱った実践報告－動機づけの方法を中心に－：○川北裕之1・土井妙子2(1千葉県立小金高等学校、2一橋大学大学院)

環境教育の実践者を支える信念に関する考察－千葉県立小金高校での授業の参与 観察と実践者へのインタビューから－：○土井妙子1・川北裕之2(1一橋大学大学院、2千葉県立小金高等学校)

京都府内の高等学校におけるゴミの実態とその問題解決に向けての技術教育および総合的な学習への適用に関する研究－校内のゴミの実態調査－：○岡村洋平・土屋英男(京都教育大学)

京都府内の高等学校におけるゴミの実態とその問題解決に向けての技術教育および総合的な学習への適用に関する研究－実態に即した教育カリキュラム案－：○土屋英男・岡村洋平(京都教育大学)

地元の産廃問題を取りあげた総合学習の取り組みが生徒の意識に与えた影響－青森県立田子高校

の事例－：○比屋根哲・松葉口玲子(岩手大学) 地元の産廃問題と持続可能な社会のための教育－教師の取り組みとライフストーリーに着目して－：○松葉口玲子・比屋根哲(岩手大学)

学校林を使った森林療法の試み：上原巖(東海女子大学)

七瀬川を題材とする総合的な学習の可能性：○三木研吾・土屋英男(京都教育大学)

ネットで生き生き学校ビオトープ：○下村研司1・豊留由美子2・高島耕一郎3(1吹田市立西山田小学校、2吹田市立山田第二小学校、3吹田市立山田中学校)

小さい水槽による海岸動物の飼育観察のすすめ：○田中良憲1・東山直美2(1西宮市南甲子園小学校、2甲子園地区里立事業対策協議会)

実践的学習の場としての学校ビオトープづくり：○木村美智子(東北文化学園大学)

動物を教材化した環境教育プログラムの実践(1) 土壌動物調査を取り入れた「食べ物のつながり」プログラム：松本朱実(動物教材研究所 pocket) 中学校社会科・理科の有効関連学習：○大谷知二1・杉野文隆2(1東栄町立中央小学校、2信楽町立信楽中学校)

「総合的な学習の時間」初年度を迎えて－中学校での事例紹介とみえてきた課題－：小杉慶子(横浜雙葉中学高等学校)

中学校における総合学習と教科の関連づけの関り方について－環境教育にかかわる課題を中心として－：○中井薫・増澤康男(兵庫教育大学)

まちづくりへの参画を目指した総合的な学習(その2)～山村とまちをくらべよう・まちで働こう～：瀧田健司(名古屋市立大曾根中学校) ○大谷知二1・杉野文隆2(1東栄町立中央小学校、2設楽町立設楽中学校)

中等教育学校における「環境学」：吉川裕之(奈良女子大学文学部附属中等教育学校)

子どもによる環境診断マップづくり(1)－意義と実践－：○片岡法子1・原田智代2(1(財)公害地域再生センター(あおぞら財団)、2京都精華大学/せいわエコ・サポーターズクラブ)

子どもによる環境診断マップづくり(2)－冊子づ

- くりに関わった住民の意識変化ー：○原田智代 1・片岡法子 2 (1 京都精華大学/せいわエコ・サポーターズクラブ、2 (財)公害地域再生センター(あおぞら財団))
- 「人生地理学」と環境教育活動：飯尾美行(静岡県立浜松城北工業高等学校)
- GLOBEにおけるプログラムの評価についての研究(その1)：○辻忠恭 1, 2・樋口利彦 1 (1 東京学芸大学、2 立正大学大学院)
- 環境学習へのNPO等の派遣効果についてー大阪府の環境学習人材支援事業を事例としてー：○杉本史生 1・藤岡達也 2 (1 京都大学大学院、2 大阪府教育センター)
- 学校とNPOの協働による環境教育～静岡からの報告～：村上敏(NPO法人富士の国・学校ピオトープ)
- 「環境教育お助けマングループ」総合学習サポートサークル：坂井誠(三重県環境学習情報センター)
- 小大連携による協働環境学習の試み：○笹谷康之・谷口知弘・三浦哲平・牧野哲也・駒嵐千明(立命館大学)
- 自然系実践
- 農業体験の持つ教育的要素とは何か～フリースペースコスモの子どもたちとの体験を通して～：桜井正喜(東京農工大学大学院)
- 「自然と遊ぼう！」の実践報告：○矢田敦之・矢田幸嗣(高知野外教育研究会)
- 自然観察から地域を見つめる公民館活動～寿こども自然観察会の3年間～：○小山泰弘 1・白井邦彦 2・中山一郎 3 (1 長野県林業総合センター、2 松本市寿公民館、3 寿こども自然観察会)
- キャンプにおける科学教育プログラムと環境教育：竹本裕之(広島市三滝少年自然の家)
- 環境教育拠点としての森の小屋造り：池田景介 1・○杉森正敏 2 (1 愛媛大学大学院、2 愛媛大学)
- 森林環境教育活動拠点施設としての森林公園の実態と可能性：木俣知大(NPO法人森づくりフォーラム)
- 視覚障害者向け森林体験プログラムの実践的研究：○小林修・馬越和可奈・鶴見武道・藤久正文・河野修一(愛媛大学)
- 幼稚園のピオトープーそのさまざまな形ー：○落合進 1・大澤力 2・三宮穰 3・山内唱道 4 (1 聖徳大学短期大学部、2 東京家政大学短期大学部 3 十文字学園女子大学、4 亀戸幼稚園)
- 都市における幼稚園のピオトープ作り：松永三姉緒(大阪薫英女子短期大学)
- 幼稚園、保育所における「自然に親しむ保育」の実態と実施における課題について：○田尻出美子 1・無藤隆 2 (1 精華女子短期大学、2 お茶の水女子短期大学)
- 生命尊重の心情をはぐくむ生活科学習：津田美子(名古屋市立篠原小学校)
- 小学校における飼育動物の意義ー歴史・現状分析と今後の方向性ー：○廣瀬由美・増澤康男(兵庫教育大学大学院)
- 体験的な活動を通して認識を深める環境学習ー身近な生き物と環境に対する認識の変容ー：○森幸一 1・大依久人 2・山尾健一 3・岩佐久雄 4・太田聡 5・井阪尚司 6・楠岡泰 7 (1 滋賀県総合教育センター、2 山東町立東小学校、3 大津市立唐崎小学校、4 浅井町立浅井中学校、5 守山市立明富中学校、6 信楽町立雲井小学校、7 琵琶湖博物館)
- 小学校で「子ども樹木博士」プログラムを3年間実施して～小学校の森林を利用した教育～：○小島枝里子・中堀謙二(信州大学)
- 小学校の校庭における蝶類：神戸真由子(愛知教育大学大学院)
- アサガオに含まれる天然色素の素材化：重藤英一(大阪府門真市立第二中学校)
- 動画を活用した学社連携による学習展開ー小学校5年理科「流れる水のはたらき」を題材にー：○埴岡靖司(岐阜県羽島郡川島町立川島小学校)・吉富友恭(自然共生研究センター)
- 小・中学生の動植物に対する体験・認識に関する調査研究ー1991年度と2001年度調査の比較ー：谷村義美(大阪市教育センター)
- 高校生物における水族館の活用ーアクアマリンふくしまを事例としてー：伊藤哲章(筑波大学大学院・福島県立好間高等学校)

保存緑地の学習空間づくりへの取り組み：○松山正将・菊地清文・花測健一・佐伯吉勝(東北工業大学)

「龍谷の森」を利用して里山学を構築する試み：○好廣真一・土屋和三・増田啓子・江南和幸・丸山徳次・須川恒(龍谷大学)

山岳トイレ問題の解決のあり方に関する事例比較研究：○奥野堅太郎・高山進(三重大学)

自然災害を通して地域の自然と歴史を学ぶ試み：萩原彰(長野県立松代高等学校)

高等学校における環境教育の一形態の考察－文化祭における全校リサイクル学習の取り組み－：内田隆(埼玉県立大宮工業高等学校)

社会系実践

ブナ天然林訪問者行動内容の詳細把握：大石康彦(森林総合研究所)

カンボジア・トンレサップ湖地域におけるエコツアーの試行：○中端章博1・阿部治2(1財団法人地球環境戦略研究機関、2立教大学)

エコツーリズムの光と影－屋久島の現状－：○柳田一郎1・柳田蓉子2(1鹿児島県庁、2鹿児島大)

産官学民のカルテッドメソッドによる、NGO主催の環境教育プログラム実践－環境冒険国際サマーキャンプ2002を例として－：九里徳泰(中京大学)

緑地保全計画・実施において生じる住民間対立・論争は協動的な環境学習によって克服されるか：樋口利彦(東京学芸大学)

社会資本(建造環境)を教材とした総合的学習：寺本潔(愛知教育大学)

中学校の社会科教科書における環境問題の取り扱いについて：岩井省一(河合塾)

選択教科、総合学習との関係を明確にした中学校社会科環境学習のカリキュラム開発：竹澤伸一(千葉県立市川市立大洲中学校)

日本の大気汚染公害訴訟の教材化－四日市・西淀川から尼崎・東京まで－：松井克行(大阪府立西淀川高等学校)

インターネットを活用したごみ教育教材開発：○向中野裕子1・樋口壯太郎2・花嶋正孝3・高

橋富男4(1WHS研究所・2福岡大学・3福岡県リサイクル総合研究センター、4日本技術開発(株))

指導者養成/カリキュラム・プログラム

社会教育者としての自然解説員：君島俊克(千葉大学大学院)

千葉県環境教育研究会のあゆみと今後の課題：○内山真義・小川かほる・田島澄雄・今井美枝子・徳増博司・藤崎貞広・菅野悟志・中山雅喜・高城英子・明石康子・石井晴・難波幸男・石井信子・鶴岡義彦(千葉県環境教育研究会)

幼児教育者養成教科で“環境”をどう紹介しているか(その8)：近藤正樹(白梅学園短期大学)

医療系大学における環境教育の新たな試み：脇誠治(群馬県立医療短期大学)

持続可能な社会を創る環境教育－持続可能性のための教育と持続可能な社会を創る環境教育－：新田和宏(地球市民教育総合研究所/近畿大学)

文理融合をめざした高水準の環境教育(環境政策学)の体系構築に向けて－課題と展望－：○及川敬貴・岡崎誠・田口勉・東佑樹(鳥取環境大学)

子どもの環境意識の地域間差：○高橋正弘(財団法人地球環境戦略研究機関)・阿部治(立教大学)

環境教育と体験学習の関わりを整理する(1)：○増田直広1・津村俊充2(1財団法人キープ協会、2南山大学)

環境教育実践としての体験学習に関する一考察：井村礼恵(多摩川源流研究所・東京農工大学大学院)

参加体験型環境教育手法「みるようになった、みなくなった」の開発：市川智史(滋賀大学)

PDCAシステムによる学習プログラムの設計・評価手法に関する研究：小川宏樹(三重大学大学院)

ドイツにおける学校の特色を活かした学習プログラムの在り方：諸岡浩子(ベルリン自由大学)

ドイツにおける「持続可能な発展に向けての教育」の取り組み：若林身歌(京都大学大学院)

国語科「一秒が一年を壊す」から「子ども環境会議」を活用したカリキュラムの実践：○渡辺敦(NPO法人かながわ環境教育研究会) 八木さえ子・

- 田中妙子・小笹雄一・宮田忠夫(大和市立林間小学校)
- 環境教育の高校教育への導入に関する実践例：横山琢爾(千葉県立沼南高校)
- 中学校理科を中心とした環境教育の「ゆるやかなカリキュラム」の提案－アクションリサーチによる反省的実践を通して－：○高城英子 1・原子栄一郎 2 (1 松戸市立新松戸北中学校 東京学芸大学大学院、2 東京学芸大学)
- 学校版環境ISOのとりくみに関する考察－栃木県宇都宮市を例に－：陣内雄次(宇都宮大学)
- 教材開発
- 輪島塗使用の環境教育的効果：○高橋道子・高橋操(光悦塾光琳会)
- 尾の白い雀の発見と行動観察：○辻正博(名古屋大学)・榎尾 一(名古屋栄養専門学校)
- 都市における身近な野生哺乳類の保全への可能性－アブラコウモリを例として－：○黒田貴綱・小堀洋美(武蔵工業大学)
- 愛知県豊橋市と田原町のカメの分布：守下恵子(愛知教育大学大学院)
- 絶滅危惧種カラノギクの復元活動から：○熊澤峻子・熊澤貴子(桂川・相模川流域協議会)
- 高・大連携による稀少植物群落の復元への試み－過剰保護により絶滅の危機を招いた愛知県豊明市の絶滅危惧植物ナガバノイシモチソウ群落の遺伝的多様性－：○櫛田敏宏 1・渡辺幹男 2 (1 愛知教育大学附属高等学校、2 愛知教育大学)
- 既存情報を活用した環境評価 視程データの活用例：○高橋正昭 1・加藤進 1・宮尻英男 2 (1 三重県科学技術振興センター、2 三重県環境防災研究所)
- 体系的な土壌の環境教育に関する研究第6報土壌教育教材の開発(2)土壌モノリスの開発：○山村憲司・深野基嗣・東照雄(筑波大学)
- 大学教育
- “環境”で卒業論文を書いた学生達：ROAN THANH BINH、○河野汀(湘南工科大学)
- 教員養成系大学における生活系環境教育－家庭科の果たす役割－：妹尾理子(東京学芸大学)
- 工学系学生への自然体験教育：○安藤正信・高原光子(日本大学)
- 人文社系大学生へのエネルギー環境教育－持続可能な未来をめざして－：和田武(立命館大学)
- 大学の一般教育科目における環境教育実践の試み：井上美智子(近畿福祉大学)
- 理念・評価
- 「スロー」の価値の明確化に関する一考察：中村恭子(東京農工大学大学院)
- 環境教育をめぐる環境倫理学の思想的基盤について－レオポルドの「野生のうたが聞こえる」とカーソンの「沈黙の春」を中心に－：○田口敬志・谷口文章(甲南大学)
- 生命倫理及び環境倫理を基盤とした環境教育の一検討：○渡辺りわ・谷口文章(甲南大学)
- 持続可能な社会のための環境教育その1－主体的に参画できる人の育成に向けての課題と展望－：岩本奈(東京学芸大学連合大学院)・小澤紀美子(東京学芸大学)
- 持続可能な社会のための環境教育その2－日英比較による考察－：○小澤紀美子(東京学芸大学)・岩本奈(東京学芸大学連合大学院)
- IUCNにおける「持続可能な開発のための教育」の射程”Education and Sustainability: Responding to the Global Challenge”から：小栗有子(東京農工大学大学院)
- 環境教育は環境運動の一部：陸斉(長野県自然保護研究所)
- 子どもの頃の遊びが成人後の意識や行動に及ぼす影響：桑津正輝 1・三島孔明 2・藤井英二郎 2 (1 千葉大学大学院、2 千葉大学)
- 環境教育技法の効果に関する社会心理学的研究(Ⅱ)：大竹庫一(愛知県立岡崎商業高等学校)
- 環境リスク行動の意思決定モデル：○大友章司・広瀬幸雄(名古屋大学)
- 学校におけるISO14001と環境意識調査：○半田孝司・谷口真嗣(常葉学園短期大学)
- 親のごみ減量行動のイメージ：依藤佳世(名古屋大学)
- 花はどこに咲いているか バンプオブチキンで体験の本質を探る：西元和夫(龍谷大学)
- シグニフィカントライフエクスペリアンス－自

然体験学習に関する環境教育学の研究動向ー：
降旗信一(東京農工大学大学院・社団法人日本ネ
イチャーゲーム協会)

イメージの変遷ー軍国の鳩・乾淑子(北海道東海大
学)

その他

総合演習における環境学習の実践について：浦田
憲二(武蔵丘短期大学)

キャンパスの自然を理解するためのネイチャーラ
リー：○倉本宣一・宮久保知和子²・斉藤有里
加²・園田陽一²(1 明治大学、2 明治大学大学
院)

子どもの環境と生活Ⅰ：○五藤千晴・雨森良子(名
古屋芸術大学)

子どもの環境と生活Ⅱ：○岡本奈津子・太田歩美・
雨森良子(名古屋芸術大学)

木津川における子どもの親水行動と水辺環境：○
岩本廣美・月出修司(奈良教育大学)

水文化教育の構想と実践(その2)ー水文化の取り
上げ方の変遷と「江戸のくらし」の実践ー：立花
楨唯(高槻市立松原小学校)

総合的な学習の時間に向けた動物園での環境学習
の試み：高橋宏之(千葉市動物公園／東洋大学大
学院)

動物園を利用した環境教育の可能性：○丸尾和
代・増澤康男(兵庫教育大学)

農山村における長期自然・生活体験を通して育ま
れる子どもの自然観ー「山村留学」調査からー：
○叶田真規子¹・岡崎友典²(1 東京学芸大学、
2 放送大学)

LOVES(地域価値交換システム)を活用した循環
型社会への大和市の取り組み：○秋山友志¹・
渡辺敦²・小林隆³(1・2 NPO法人かながわ
環境教育研究会、ラプスサポートセンター、3 大
和市情報政策課)

市民組織を生かした環境教育とその実践：古澤良
彰(上越教育大学)

コミュニティガーデンと持続可能な地域社会をめ
ざした住民による主体的行動：安藤洋人・樋口
利彦(東京学芸大学)

地域における環境教育・学習パートナーシップ構

築の展開ー行政及び市民団体の実践モデルの検
討からー：藤岡達也(大阪府教育センター)

河川に対する児童の意識に基づいた環境学習のカ
リキュラムデザイン：○吉富友恭(土木研究所
水循環研究グループ)・埴岡靖司(岐阜県川嶋町
立川嶋小学校)・今井亜湖・松下幸司・前迫孝憲
(大阪大学院)

Wanderung(森林散策会)を50回行ってー大学生が
主催し地域住民と共に里山歩きを楽しんだ25年
間ー：中堀謙二(信州大学)

ポスター発表

Reorienting Education towards Sustainable Develop-
mentのエチュード：原子栄一郎(東京学芸大学)

医療廃棄物を考える環境教育への視点～看護学校
の現状～：松下由美子(和歌山県立医科大学看
護短期大学部)

生涯学習としての環境学習プログラムの一考察
(1)ー「イオンみどりこどもエコクラブ」・「フジこ
どもエコクラブ広島」を中心にー：榎木志保(安
田女子大学大学院)

生涯学習としての環境学習プログラムの一考察
(2)ー行動と意識の変化を中心としてー：○前田
洋枝¹・榎木志保²(1 名古屋大学大学院、2 安
田女子大学大学院)

日・中 中学生の環境意識・実践の比較ー日本の中
学生の特徴ー○小田篤夫¹・林誠之¹・土屋清
一¹・細見修¹・西田真哉²・周又紅³・岩井秀
明¹(1 順天堂大学、2 国立赤城青年の家、3 北
京西城区青少年科技館)

体験熟センス・オブ・ワンダー in 福富ー学校週5
日制への地域の対応と大学の関わり例ー：○
山崎博史¹・竹下俊治¹・難波久佳²(1 広島大
学教育学研究科、2 体験熟センス・オブ・ワン
ダー in 福富)

地域性を生かした環境教育プログラムのデザイ
ン：○近藤祐一郎¹・長瀬公秀²・佐藤智史³・江成
敬次郎¹(1 東北工業大学、2 稲垣村産業振興課、
3 稲垣村立稲垣中学校)

信州大学教育学部における環境教育関係卒論の紹
介：渡辺隆一(信州大学)

「きのみ・くさのみ」で自然に親しむ環境教育：○野本康太・後北峰之(伊丹市民昆虫館)
動物園で、何を見る？～ヒトと自然と動物と、一緒に考えられる場を目指して～：○栗原七保子・竹前朝子・久保良法(横浜市立よこはま動物園)
地域とともに学校の自然を守り、育てよう：○田明男1・加島裕次2(1大阪市立姫里小学校、2都島こどもエコクラブ)
「海のゆりかご」アマモ場を利用した環境学習について：○中嶋清徳、近藤幸恵、春日井隆(名古屋港水族館)
都市型公園における環境教育活動ー自然発見館での試みー：重松明子(河川環境楽園自然発見館NPO生態教育センター)
「第19回自然はともだち自然観察路コンクール」における小中高の最優秀作品と海外作品の紹介：齋藤三男(実践生物教育研究会)
カードゲームで地球を守ろう！：今安和彦(滋賀県立水口高等学校)
博物館と海を活用した身近な自然を調べる環境学習：○伊藤芳英1・秋原治芳2・杉浦元昭3・西源二郎4(1東海大学海洋科学博物館、2東海大学付属小学校、3清水市立興津小学校、4東海大学海洋研究所)

関連小集会

環境教育におけるティーチャーズガイドのあり方を考えよう：小林毅(自然教育研究センター)
食と農をめぐる環境教育：原田智代(京都精華大学)
動物園関連集会実行委員会：高橋宏之(千葉市動物公園)
幼児期における環境教育：大澤力(東京家政大学)
環境教育と学校ビオトープ(Ⅳ)総合的学習における学校ビオトープの位置づけ：赤尾整志(グローバル環境文化研究所)
カードゲームで地球を守ろう！：今安和彦(滋賀県立水口高校)
環境関連財団・NPOの学校支援事業：安藤聡彦(埼玉大学)
持続可能な社会づくりとあなたの環境教育：林浩

二(千葉県立中央博物館)
持続的な地域社会を協働探求する筋道と環境教育ー多様な「ローカルアジェンダ」の取り組み：高山進(三重大学)

◇関西支部の活動

(2003年1月～7月)

○関西ワークショップの開催

第106回関西ワークショップ(2/16 京エコロジーセンター)「『エネルギー教育を考える(第1回目)』討論会」ファシリテーター：塩川哲雄氏(大阪府立北千里高等学校)、本庄眞氏(香芝市立眞美が丘東小学校)、天野雅夫氏(甲南病院看護専門学校)
第107回関西ワークショップ(2/22 神戸市森林植物園および神戸市水の科学博物館)「神戸の「水と音」を探るエクスカッション」
第108回関西ワークショップ(3/22 エコ・スペースゆう)「エネルギー教育を考える(第二回)」鈴木靖文氏(ひのでやエコライフ研究所)
第110回関西ワークショップ(7/6 甲南大学)「『国連・持続可能な開発のための教育の10年』を考える」森家章雄氏(神戸商科大学)
第111回関西ワークショップ(7/13 膳所城址公園)「外来魚を釣ろう」板倉豊氏(京都精華大学)

○ニュースレター「関西エコメール」の発行

第70号(2/7)、第71号(3/14)、第72号(6/23)

◇福岡県支部の活動

(2003年1月～8月)

○第8回福岡県環境教育学会例会

3月15日(土)・16日(日)

「地域づくり・農林業体験宿泊研修」
四季菜館(八女郡黒木町)

○福岡県環境教育学会第6回年会

8月23日(土) 福岡県立社会教育総合センター

テーマ「学校における環境教育」

パネルディスカッション

「学校における環境教育の実践と課題～環境教育はバラ色?～」

コーディネーター；中村重太(福岡教育大学)

パネリスト；緒方信一(北九州市環境局計画課)

日高美紗子(福岡市環境局環境啓発課)福泉亮

(福岡県立修猷館高校)清水佳香(NPO法人エコけん)